



## 能楽シテ方 喜多流

おおしま きぬえ

大島 衣恵さん

広島県福山市在住

## プロフィール

1974年、広島県福山市出身。2歳の時、「鞍馬天狗」の稚児で初舞台。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。1998年、喜多流では初めて女性で(社)能楽協会に登録。海外公演や子ども達への体験学習に取り組み、能の普及に尽力。2009年度に福山青年会議所初の女性理事長に就任。比治山大学(広島市)客員教授。



能や和の文化は、  
世界にも引けを取らないもの。  
日本人がそれを知らないのは  
もったいないと思います。

### 体を整えることで、 心も育っていく。

全国でも珍しい個人所有の能楽堂を持つ大島家に生まれ、国総合指定重要無形文化財の祖父や父に学び、喜多流では初めて女性シテ方(主役を演じる役者)になった大島衣恵さん。新作英語能「パゴダ」のヨーロッパとアジアのツアーを成功させたほか、台湾やアメリカで能の講師を務めるなど、グローバルな舞台でも活躍を続けています。

「海外の方は本格的に能を勉強しようという意識が高く、集中して吸収しようとするエネルギーが凄いですね。限られた時間の中で、“どんなことでも、もらさず吸収しなければもったいない”という強い気構えを感じます。海外公演に行くと、海外に出て初めて能を見て感動したという日本の方によく会います。私たちは海外からのものを取り入れるのに忙しく、自分の足元を見失いがちですが、和の文化や能などの伝統芸能は、世界に引けを取らないものだと思います。日本人がそれを学ばないことはもったいないと思います」

衣恵さんは、能の魅力子ども達など初心者に伝えるための体験学習にも積極的に取り組

んでいます。小学校の体験学習では、能の歴史を教えてから、実際に謡やすり足など能の基本にトライしてもらいます。

「能は謡ったり、舞ったりして体を使う芸能ですから、その楽しさを伝えたいですね。“姿勢を正しなさい”と言葉で言ってもピンとこない子ども達も、実際に声を出したり動いてみたりすると、そのことの大切さを実感できるようです。背筋を正すことで、気持ちもスッと正され、集中力も高まります。子ども達の体を整えていくことで、心もすくすくと育っていくのではないのでしょうか」

### 命には終わりあり。 能には果てあるべからず。

大正時代に建てられた大島家の初代能舞台は空襲で焼失し、現在のものは戦後に衣恵さんの祖父、久見さんが一から再建したもので、二代目の舞台が稽古舞台、三代目が本舞台になっています。

「面や衣装なども焼失してしまったため、祖父



▲「能は緊張感の芸術。演じるものも見るものも、集中力を要求される度合いは、他の芸術に比べて突出していると思います」。大島能楽堂にて。

◀自分用に作ってもらった新しい小面。

は苦労して一から集めていきました。それだけに、それらは私のものでも、大島家のものでもなく、大切に扱い、何十年も、何百年も受け継いでいかなければならないものだと思います。絶対に使い捨てにはできないです。その一方、形あるものはいつか壊れてしまいます。喜多流十四世宗家、喜多六平太師は能の伝書が失われた時、“頭の中にあるから大丈夫”とおっしゃったそうです。私も能の型を自分のものとして体得し、無形の遺産を次の世代へと伝えていきたいですね」

「命には終わりあり。能には果てあるべからず」世阿弥の言葉を胸に、衣恵さんは挑戦を続けます。



▲能「千寿」シテ 大島衣恵  
平成23年4月17日 大島能楽堂 (池上嘉治撮影)